

令和 7 年度

事業報告

(令和 7 年 7 月 1 日～令和 8 年 6 月 30 日)

特定非営利活動法人

日本国際湿地保全連合



1. 調査・研究事業

1.1 令和7年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）

磯・干潟調査

- 磯・干潟生態系に設置された14か所（磯6か所、干潟8か所）の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。磯生態系では、毎年調査よりも詳細な定量調査・標本作製「5年毎調査」を実施した。
- 事業で得られた調査データについて、論理的・生物学的チェックを行い、解析等に使用しやすいフォーマットのデータベースファイルに変換した。また、調査データを取りまとめた調査報告書を作成した（生物多様性センターのウェブサイトにて公開）。
- モニタリングサイト 1000 沿岸域調査（磯・干潟・アマモ場・藻場）2008-2022 年度とりまとめ報告書の公開（2025/2）に合わせて、SNS への投稿や学会での企業展示ブース等において本調査の広報活動を行った。
- 各生態系の専門家による磯分科会および干潟分科会を開催し、各生態系の調査結果および沿岸域調査の第4期とりまとめ方針（案）等について検討した。また、アマモ場・藻場を含む各分科会で議論された内容を共有し、共通する課題の解決をはかるための沿岸域検討会を開催した。
- 干潟生態系における約15年間の調査結果を使用した底生動物の経年的な変動性等について、国内学会大会や国内学会誌で成果を発表いただいた。
 - ◇ 金谷 弦, 阿部博和, 宮本康, 仲岡雅裕, 鈴木孝男, 多留聖典, 木村妙子, 古賀庸憲, 浜口昌巳, 逸見泰久, 岸本和雄, 上野綾子, 青木美鈴, 日本沿岸の干潟ベントス群集における種多様性と群集構造の緯度間変動: モニタリングサイト 1000 調査データに基づく解析, 2025 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 宮城, 日本 2025.
 - ◇ Kobayashi G. & Nishi E (2026) *Becoming worldwide: first record of the invasive fan worm Branchiomma luctuosum (Annelida: Sabellidae) in the Pacific, based on a specimen from Japan*, *Plankton & Benthos Research*, 21(1): 7–15.
- 令和7年度に引き続き、令和8年度も業務を受注した。

1.2 令和7年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）

アマモ場・藻場調査

- アマモ場・藻場生態系に設置された12か所（アマモ場6か所、藻場6か所）の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関との調整を行った。
- 事業で得られた調査データについて、論理的・生物学的チェックを行い、解析等に使用しやすいフォーマットのデータベースファイルに変換した。また、調査データを取りまとめた調査報告書を作成した（生物多様性センターのウェブサイトにて公開）。
- モニタリングサイト 1000 沿岸域調査（磯・干潟・アマモ場・藻場）2008-2022 年度とりまとめ報告書の公開（2025/2）に合わせて、SNS への投稿や学会での企業展示ブース等において本調査の広報活動を行った。
- 各生態系の専門家によるアマモ場分科会および藻場分科会を開催し、各生態系の調査結果および沿岸域調査の第4期とりまとめ方針（案）等について検討した。
- アマモ場・藻場における15年の調査結果等を使用し、近年の沿岸部藻場の衰退等について

て、国際・国内学会で発表もしくは論文のとりまとめを支持した。

- ◇ Terada R., Abe T., Akita S., Kamiya M., Kawai H., Kurashima A., Nagasato C., Sakanishi Y., Shimabukuro H., Suzuki H., Tanaka J., Uwai S., Watanabe Y., Ueno R., Aoki M. (2025) Significant changes in seaweed community structure revealed by a nationwide long-term monitoring survey in Japan 'Monitoring-Site 1000' over the past 15 years (2008–2022), *Phycological Research* 2026; 74: 39–56 (doi: 10.1111/pre.70019).
- ◇ 寺田竜太, 阿部拓三, 神谷充伸, 川井浩史, 倉島彰, 長里千香子, 坂西芳彦, 島袋寛盛, 田中次郎, 上井進也, 上野綾子, 環境省モニタリングサイト1000 沿岸域調査における藻場のモニタリング 2025 年の成果, 日本藻類学会第50回大会, 茨城, 日本2026.
- 令和7年度に引き続き、令和8年度も業務を受注した。

1.3 令和7年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト1000）

陸水域調査

- 湖沼生態系では、水生植物調査で3か所、淡水魚類調査で2か所の調査サイトにおける生物調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関と調整を行った。
- 湿原生態系では、3か所の調査サイトで植生調査の実施を研究者へ依頼し、調査が実施できるよう各関係機関と調整を行った。また、10か所の調査サイトで物理環境データの回収、機器の交換を行った。
- 水生植物分科会、淡水魚類分科会、湿原分科会を開催し、事業の進捗状況の確認、調査体制の維持・強化への取り組みや現場の安全管理に関する内容等について検討した。また、各分科会で議論された内容を共有し、共通する課題の解決をはかるための陸水域検討会を開催した。
- 調査の継続性を担保するための取り組みの一つとして、水生植物調査では、各サイト代表者らによる意見交換会を開催し、調査手法の確認や現場での課題等の情報を共有した。また、湖沼調査では、現場調査の様子を撮影した公開用の動画マニュアルを製作した。
- 2024年度に取得されたデータを生物多様性センターのウェブサイトにて追加公開するとともに、海外の大学の研究者からのデータ提供の依頼に対して、環境省とのやり取りを支援した。
- 「2009-2023年度とりまとめ報告書」を確定し、生物多様性センターのウェブサイトから公開した。
- 屏風山湖沼群における淡水魚類調査について、アウトリーチ等を目的に、調査にご参加いただいた先生と地元の土地改良区がコンタクトを取れるように調整した。年度末の土地改良区の総会では、成果の一部をご報告いただいた。
- 令和7年度に引き続き、令和8年度も業務を受注した。

1.4 石川県七尾湾等における底生動物採取、環境測定および事前調整

- 国立環境研究所が実施する研究プロジェクトの一環で、石川県七尾湾沿岸部等における干潟調査の事前調整および現地調査に参加した。また、環境測定データの結果を整理・とりまとめ作業を行った。

2. 情報提供事業

2.1 Eco-DRR 遺産（仮称）認定システムの構築

- 湿地に関する伝統的および地域的な生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR: Ecosystem-based disaster risk reduction）について、これまでに日本およびアジア各国における伝統的、地域的な湿地に関する Eco-DRR の事例を調査、収集し、整理してきたことをふまえて、Eco-DRR の事例が専門家によって評価される Eco-DRR 遺産の認定システムの構築を目的とした。
- 日本・アジア各国の事例を現地で確認しながら、認定システム構築にむけた議論を深めながら、基準など Eco-DRR 遺産の認定システム案を作成することを目指した。日本およびアジア各国において Eco-DRR 遺産となりそうな事例について評価シートを用いて検討し、8 月に国際湿地保全連合のインドネシア事務所の協力を得て現地調査およびワークショップを開催した。Eco-DRR 遺産として、どのような事例が認められていくのが望ましいか、ガイドラインとしてまとめの資料を作成した。
- 気候変動適応および防災・減災、湿地等に関する国際的な動向について、7 月にラムサール条約 COP15（ジンバブエ）、9 月に水の環フォーラム in 神戸で情報収集および情報発信を行った。また、10 月に都内でラムサール条約 COP15 報告会を開催し、IUCN の WCC（アラブ首長国連邦）等で情報収集、情報発信を行った。

3. 支援事業

3.1 令和 7 年度ラムサール条約登録湿地関係市町村会議ホームページ運営管理業務

- 「ラムサール条約登録湿地関係市町村会議ホームページ（<https://www.ramsarsite.jp>）」について、サーバーおよび CMS の管理、会員名簿更新、ラムサール条約の情報更新、各湿地ページの定期的な情報更新（17 か所）、首長会議と学習・交流会の記録の掲載などの管理・運営を行った。
- ラムサール条約や登録湿地に関するお知らせ、イベント情報、事例共有等の情報発信に活用できるよう、各市区町村会員が記事を自由に投稿できる「情報広場」掲示板の管理を行った。
- 会員市区町村間の交流や情報交換・意見交換等のコミュニケーション活性化を目的として運用されているメーリングリストを管理・運営した。登録メールアドレスの更新、ウイルスおよび無差別投稿に対応するための検閲、送信エラーへの対応等を行った。さらに、会員市区町村の担当者等がメーリングリストの利用方法を随時確認できる案内ページ（https://ramsarsite.jp/about_mailing-list/）をサイト内に設けた。

3.2 令和 7 年度ラムサール条約登録湿地関係市町村会議第 15 回学習・交流事業企画運営業務

- 2025 年 11 月 7 日に北海道釧路市において、「地域を支える湿地教育」をテーマに、第 16 回学習・交流会（市区町村長研修会）を開催した。都留文科大学教養学部地域社会学科准教授の田開寛太郎氏をコーディネーターとして、趣旨説明、情報提供、基調提案、4 市 1 村 1 団体からの事例報告、意見交換を行った。30 の会員市町村から 65 名、環境省から

7 名、その他関係者や研究者が参加した。前年度実施したアンケート調査の結果をふまえ、学校教育と繋がり、地域として湿地教育を進めるためのヒントを学び、各市町村で行われている湿地教育について情報交流を行った。

- 2025 年 7 月にラムサール条約湿地となった猪苗代湖を有する会津若松市、郡山市、猪苗代町が、2025 年度から会員となった。

3.3 令和 7 年度ラムサール条約登録湿地関係市町村会議 湿地教育にかかわる事例調査事業

- 前年度実施した会員市区町村へのアンケート調査およびヒアリング調査の結果やこれまでの学習・交流会での事例報告をふまえ、概要版と報告書の 2 種類を作成し、ホームページで公開した。

3.4 令和 7 年度ラムサール条約第 15 回締約国会議支援等業務

- 2025 年 7 月 24 日から 31 日に、ジンバブエのヴィクトリアフォールズで開催されたラムサール条約第 15 回締約国会議（COP15）において、環境省が主催するサイドイベントの開催支援を行った。7 月 26 日の昼の時間に開催した猪苗代湖の新規登録および水田における生物多様性保全と OECM の推進に係るサイドイベントには、日本および韓国政府関係者、関係自治体、専門家、各国政府関係者およびオブザーバーなど約 80 名の参加があった。
- COP15 開催期間中に、環境省が設置した展示ブース（日本における湿地保全の取組紹介）の設置および運営に係る各種調整等を行った。展示物については、ラムサール条約湿地を有する地方公共団体等に募集を行い、19 のラムサール条約湿地に関するポスター、パンフレット等の提供があった。今回は、会議会場であるエレファントヒルズリゾートのゲートからホテルへ向かう道沿いの屋外に展示ブースが設置されたため、会議参加者はサイドイベントの会議室があるホテルに向かう際に、展示ブースの前を通ることになり、移動の途中で足を留める参加者が多かった。

3.5 令和 7 年度ラムサール条約関連図書の翻訳・編集業務

- ラムサール条約事務局より 2025 年版の GLOBAL WETLAND OUTLOOK（世界湿地概況）が公表された。湿地保全についての普及啓発、ワイズユースの一層の推進のため、日本語版を作成することとなった。英語から日本語への翻訳を行い、図表中等に記載の英文についても日本語翻訳し、元原稿と同様の構成となるようレイアウト等を調整した。

3.6 令和 7 年度協定等会議における日韓逐次通訳等開催支援業務

- 2025 年 10 月 21 日から 23 日まで中国山東省東営市で開催された日豪中韓 4 か国による渡り鳥等保護協定等に基づく会議に出席し、これら会議の開催の支援を行った。具体的には、22 日に開催された第 16 回日韓環境保護協力協定に基づく日韓渡り鳥保護協力会合において、日本の環境省、専門家および研究者による発表内容、日韓政府代表団間の意見交換、協議等について、日本語から韓国語への逐次通訳を行った。また会議期間中、必要に応じて、韓国政府代表団とのコミュニケーションを支援した。

4. 普及啓発事業

4.1 令和7年度「世界湿地の日」における普及啓発推進業務

- 2026年2月2日の「世界湿地の日」のテーマは「Wetlands and traditional knowledge: Celebrating cultural heritage (湿地と人々の知恵: 世代をこえて守りつづける共生の文化)」であった。ラムサール条約事務局から提供されたポスターやインフォグラフィックの日本語版を作成し、関係者等に提供した。

4.2 2026年 国連「世界湿地の日」の広報とイベント開催

- 2026年2月2日「世界湿地の日」の1か月ほど前に、FacebookとXに「世界湿地の日」を公式ポスターの日本語版を公開し、情報発信を行った。
- 2026年2月1日に中央区環境情報センター「エコノバ」で世界湿地の日記念イベントを開催した。日本におけるラムサール条約の推進や湿地保全に長年尽力してきた名執芳博氏（WIJ 相談役）をゲストとして迎え、「ラムサール条約に関わった35年とこれから」をテーマに、日本におけるラムサール条約の歩みや湿地保全、ワイズユース、湿地の伝統知、今後の展望等について対談形式で話を伺った。会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、約30名が参加した。

4.3 日本のラムサール条約登録湿地および湿地に関する情報発信

- 2025年7月24日から31日に、ジンバブエのヴィクトリアフォールズで開催されたラムサール条約第15回締約国会議（COP15）について、現地からのレポートをSNSで計7件配信した。決議案の採択状況、ラムサール条約戦略計画2025-2034の紹介、湿地都市認定書授与式の様子、カシボ湿地保護プロジェクト現地視察、次回締約国会議の開催地決定の速報など、COP15に関する情報を発信した。
- 猪苗代湖のラムサール条約登録記念交流会や名古屋市の湿地都市認証記念シンポジウム、湿地都市ネットワークの定期ウェビナーなど、ラムサール条約に関連する国内外のイベント情報の発信に協力した。
- モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の広報活動の一環として、2009-2023年度とりまとめ報告書の公開を周知するとともに、報告書の概要を生態系別に整理し、定期的にSNSで発信した。